

刊夕日十二月五



定価 一部金五銭 五部金二五銭
 廣告料 五部金五銭 一行金五部金五銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 東京都千代田区千代田 宗誓毎日新聞社
 電話 六三〇〇
 印刷所 東京都千代田区千代田 宗誓毎日新聞社

奥様心得帳

有害な着色食物

食料品の中には腐敗を防ぐためにしばしば有害な防腐剤を混ぜたものが買われていますが、一方ではまたそのものゝ色をよく見せるために、いろいろな方法を用いたものがあります。その中には有害なものがあります。ですから、御注意が肝要です。たとへば目刺しですが、なるべく長く生きのよい様に見せる必要から、寒天の薄いききに浸して薄い膜をつくり腐敗を防ぐとともに一層色をあざやかに見せる様にしたものがありませんがこれは寒天そのものが食品なので問題はありませんがグリーンピースのやうに着色剤に銅などの有害なものを用いたものは大いに警戒しなければなりません。

なせ着色剤として有害な銅を用ゐるか云ふと、この金属は葉緑素と大變關係があつて天然の野菜や果實の緑色を長く保存させるのに使用されるわけですが、これには内務省の取締規則があつて、野菜果實では重量一キログラムについて百ミリグラム以内の使用が許され、またコンブなどは乾燥

したもので一キログラムに對し百五十ミリグラムまで銅及び銅の化合物が含有されてゐてもよい事となつて居ります。百ミリと云へば一グラムの一千分の一で非常に微量なのでこの程度でしから害はないのですが、このくらゐでは自然の新鮮なものよりも少し手前の色しか出ないので勢ひ規定を無視して多量を使用する傾向がどうかすると見られるの

- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁 — ねぎ 小付 金小寺味噌
 【晝】煮付 鰯 おろし大根
 【晚】五目入厚焼き玉子 和へ物 木の芽 竹の子
 で、そこで多量の銅や、銅の化合物を使用した食料品はどんな色をしてゐるか云へば、グリーンピースなどでは緑色を通り越して青い沈んだ濃い色となつて居ります。キウリ等もグリーンピース同様どうかすると銅を使用したものがあります。特に此の方は奈良漬ですが本来の性質から云ふとキウリに限らず野菜物は漬ける

と自然の緑色が褪せて變な褐色となるのが普通あるにも拘らず青々と如何にも不自然な色をしてゐるのはと

店主が	店員
を連れ	て行
かれ	る
正シイ	食堂
正シイ	喫茶
正シイ	酒場
平・田町	
レスト	サロン
電二五三番	

治療

★
 クスリはホシ
 花柳病豫防と治療法
 「花柳病の豫防と治療法」に關する小冊子あり
 ホシエンストアに無
 き時は本社営業部宛御
 申込られ無料にて速時
 送附す

花柳病豫防薬
 ホシペツセル 1.00
 本剤は花柳病豫防薬にして、キニネン類及びオルト酸化ヒノリン酸基物を主成分とし、微生物に對する死滅力が強烈である、然して人體には無害である。

全國ホシエンストアにてお求め下さい
 社 會 式 株 藥 製 星 京 東

洋食 毎度有難うございます
 エビフライ
 ビフテキ
 喫茶 宴会
 コンパル
 女給數名募集
 平塚前新道通り
 TEL・666

看護婦急派
 の求めに應
 じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三七〇

今年のパラソルの流行は!!!

新人の店 大黒屋洋品店主談
 製造能力が上らない為先は品不足で先高とくろうと筋は見えて居りますから早くお買になつた方が安くて良い柄を選ぶ事も出来、御利益かと存じます幸いにも皆様の御愛顧は東京のデパートと専門の製造家の新期契約がむすばれましたので東京デパート其のまゝの安値でお願いする事が出来ます事は大黒屋の本年の強みで御座います。全部本年の新柄は到着致しました。パラソルの御買上には一應大黒屋を御覽になる事が徳策かと存じます。

今年の相場

ボイル二重張	一圓半ヨリ
ジョセット	二圓半ヨリ
本絹	三圓半ヨリ
コハク一重	十圓代
	二圓ヨリ五圓

愛讀者各位よ

政友会幹事長就任に就て

川崎 文治

愛讀者各位

茲に親しく御相談を申し上げ、御諒解を願はねばならぬ問題があります。

夫れは今回の石城政友会役員改選に伴ふ私の幹事長就任に關する一身上の問題であります。本年は縣會議員の改選、來年は代議士の選挙を控へ、部會の前途は誠に多事多端を極めて居りますので、役員の上直しには、種々複雑難緯を辿りまして會長に鈴木辰三郎代議士、副會長に古川傳一、小野晋平兩氏、そして幹事長は結局無力の私に白羽の矢が立ちました。

御承知の如く、部會設立前は佐藤庄太郎氏が幹事長的の強固な存在として、鋭意黨勢の刷新に努め、本郡を政友會の金城鐵壁化し、その基礎の上に部會が組織されて、初代幹事長に鈴木辰三郎氏、二代目は井上茂作氏が就任、今日に至つたのであります。政友會の幹事長は申す迄もなく、大世帯を一身に背負つて、第一線の矢表に立ち、身を挺して働く、重要な役割りに在ります。果して此の重任に私が堪え得らるゝかどうかは考へる迄もないのであります。従つて内交渉に接して、私は、即時不承諾を表明し

ました、自分を知り過ぎて居る私としては到底慥面もなく、此の光榮を甘受する事が出来なかつたのであります。然るに總會の席上、木村前代議士よりの指名を見るに至り満場是れに和して承認と云ふ工合に、私は無理強へに引き据へられて終つたのであります。勿論私は其席上でも就任の諾否は一時保留致しましたが、責任上是れを不問に附する譯には参りません。聚樂館の樂屋で、懇親會の席上でも其他大いに駄々をこねたのであります。テンデ何人も私の駄々を通させてくれ様とはしません。

序として自分の身邊を申上げますと、新聞事業も、印刷事業も、漸く現在目鼻の付いた型で、今が最も大事な時代であります。然も傍ら市制を前途に控へ、問題山積の町治に參與して仲々忙しい折柄、更らに此上煩激な任務を加へると云ふ事は限りある身に、甚だ重い負擔であります。自己中心の立場から申せば一顧の暇なく拒絶すべきでありませう。

起つべきである。そして信頼する先輩にも打明けて相談し、意見も聞き充分決心を固めて漸く不敏に鞭打ち幹事長を引受ける事になりました。而し、私は此椅子を汚すに當つても、反對派の人々と仲たがひをせんと云ふ様な氣は毛頭ありません。勿論自分の主義主張の前には命を賭して奮闘しますが、反對派だからといつて蛇蝎の如く嫌ふと云ふが如き狭量な態度は絶対に是れを避け、従つて個人の私は政友會所屬であつても、常磐毎日新聞は郷土の公器でありますから厳正に中立の立場を確保し絶対に一黨一派には偏せず、飽迄も此の新聞の特別な使命を果す事に努めます。此の点は特に今後の紙面に徹して御信頼願ひ度いと思ひます。

愛讀者各位。私は日頃此の郷土新聞を經營するに當つては、讀んで下さる各位と製作者の私共は恰も一家中の如く渾然と融和して行かねばならぬと信じて居り、此の点が單なる報導機關とは自から立場を異にして居りますので日頃の御厚意に甘へ今回の一身上の問題を正直に告白しまして、御諒解を願ふ次第で御座います。

どうぞ私の衷情を御調察下さいまして、今後一個の川崎をよりよく働かしめ、何か國家社會に有意義な力を發揮する事の出來ます様、常に絶えざる御指導と御鞭撻を切願して止まぬ次第で御座います。

西部下水路

實現の負擔金

關係地主が參集協議

古鍛冶町、研町、紺屋町、材木町、長橋町等平町西部方面の溝渠溢水を防止する爲め縣社前にマンホールを設け百八十二間の暗渠を以つて新川に排水する大下水路の掘削は方部民の懇請に基き本年より二ヶ年の繼續事業として一ヶ年四千九百圓宛の工費を投じて着工する事となつたので川角長橋、水澤研古、長瀬材木、水竹紺屋の各區長が發起となり地元負擔金二千百圓の檢出方法に關し協議する爲め同方部地主が廿三日午後一時から天理教會に參集懇談する事になつた

平町人事

出生

△北目町 田中芳氏二男仁郎

結婚

△搔樋小路 當時新瀉縣串魚沼郡吉田村仲居リウ子(二〇)さん東白川郡社川村吉田昇氏(三〇)

死亡

△舊城跡三十 高木やきの(五五)さん

自給肥料

増産者表彰

飯野村農會は昨十九日午前十時から小學校に於いて自給肥料増産者左記二十四名の表彰式を行つた

(上荒川)猪狩定吉 志賀典吉 草野金之助(下荒川)山崎文一 阿部芳政 山崎喜平治(中山)小野利明 鈴木嘉吉 村田嘉久 (小泉)白土忠治 小泉忠義 高崎喜一(上高久)小泉得衛 白土二郎 鈴木信次郎(南白土)白土武雄 久田定之進 江尻久平(北白土)鹽儀助 伊藤

新車御披露!!

時代の尖端皆様の昭和タクシー

に又々新車三五年の超モダン車拔群のダツチブラザーズが入りました。安全、確實、迅速は他の追従を許しません。匆匆しかつたお花見も過ぎ去りいよいよ遠出行樂の季節となりました。是非昭和の新車でお出かけ下さい。如何様の御相談にも應じます。團體には地方唯一の大型遊覽車御利用願ひます。

驛前

昭和タクシー

電話三四三・三四〇番

東京短期(本日)

品名	寄付	大引	高値	安値
新東	一四一	一四六	一四一	一三八
新大	六八	六六	六八	六九
新新	三五	三五	三五	三五
新新	二六	二七	二七	二六
日新	七三	七三	七三	七三
帝人	七三	七三	七三	七三
東洋	七三	七三	七三	七三
日石	七三	七三	七三	七三
日産	七三	七三	七三	七三
鋼管	七三	七三	七三	七三
東電	七三	七三	七三	七三
日電	七三	七三	七三	七三

國勢調査を

前に下準備

郡下の統計主任

一堂に合して打合せ

本年十月一日を以て執行される國勢調査の完璧を期する爲め来る平町團体事務所にて郡下統計主任會を開いて國勢調査の打合せを行ふと

江名の托兒所 江名町は大字永崎下神白、上神白の三部落農民の爲め來月九日から十日間永崎分教場内に托兒所を開設すると

海上に漂ふ

腐爛した溺死体

十八日午後四時頃小名濱港沖合五、六哩の海上で同町第三松丸(船長馬松太郎)が三十歳前後漁夫らしい男の腐爛した溺死體が浮んで居るのを發見拾ひ上げて小名濱町役場へ引渡したが身元不明である

平と富岡の 對抗劍道 既報平、富岡兩武徳會支部の對抗劍道試合は本月廿六日午前十一時から平署會議室で行ふと

田植の工夫は 辨當持九十錢

飯野村農會の打合せ

飯野村農會は昨十九日午後一時より小學校に村内農事實行組合長會議を開き左記諸案を決定した
二毛作々付増加、有蓄農業の奨勵、副業品規格の統一、苗代病虫實驅除、田植開始は六月十七日にする、人夫賃辨當持九十錢同不持七十錢

江名漁港

繼續許可

地元も負擔 既報江名漁港は去る八年以來二ヶ年繼續事業として着工中の處本年も七千四百圓を投じ改修を繼續すべく縣へ申請中であつたが今回工費の四分の一は地元負擔金として提供する條件付で許可された

江名町の會議 江名町は本廿日午前九時より町會を招集し漁港新設工事、上水道敷地、托兒所開設等を附議する

教員檢定

志望別内譯

小學校教員檢定試験は今十九日より六日間福島、郡山平、若松の四試験場にて一齋に行はれるが今回の演進り方面の出願者百五十名志望別左の通りである
(小學校本科正教員)男二

バケツの熱湯を

頭から浴びて...

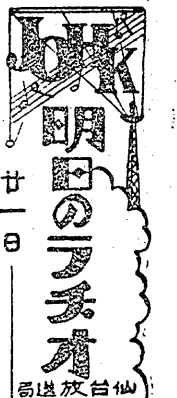
幼兒大火傷を負ひ死亡

内郷村大字宮字峯根善次郎四男渡郷鐵男(五)は去る十八日午前八時頃自宅附近で遊戲中誤つてバケツの熱湯を頭から浴び火傷を負つたが昨十九日朝死亡した

縣下の健康兒に

平第一校の吉江一行君選抜

平第一小學校尋常六年生吉銀治町吉江一行君は過般縣廳で行はれた縣下の健康優良兒童審査會にて第一次選抜者の内に加へられ實地審査の爲め来る廿五日篠山校長引率にて出縣する事となつた、尙同君は學業體格共に優秀である



今晩は南東の風 驟雨あり明日は 天氣好し

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「伊達正宗公」菅原蘭吉
後六、二五 基礎英語講座
(一八)岡倉由三郎
後七、三〇 講演「貨幣制度の近況と、その歸趨」經濟學博士 高橋寅次郎
後八、〇〇 管絃樂「ペー」トウエン連續演奏第五回日本放送交響樂團指揮

明日の部

山本直忠
後八、三〇 舞臺劇「權三」と助十片岡我當守田勘彌
外新宿第一劇場より中繼
後九、一五 小唄「一、春霞立つや、二、梅の實外數種唄夢伊久
後九、三〇 時報「ニュー」ス 氣象通報 番組豫告
前六、三〇 基礎獨語講座
となり此の程希望者二十名の採用試験を行つた結果第一回入所員は左記五名に決定、六月一日より縣山林課の大竹技手を教師として授業を開始すると

書道大家

聯合書道會

書道同好者を糾合して平町に聯合書道會を創立する書海社平支部會は去る十八日午後一時より平第二小學校にて開かれ諸官衛學校等の研究代表約四十名參集協議の結果、愈々來月九日午後一時より第二小學校に平町聯合書道會發會式を挙げることに決定した當日は縣下有数の書道の大家双葉郡新山町半谷松湖氏が臨席する旨尚全國書道展覽會は八月上旬平町に開催の豫定である

小名川改修

けふから始る

小名濱町は本年度巨款事業として小名川の改修工事を工費五千八百圓で着手すべく豫てより政府に低利資金の借入れ方を申請中であつたが此程認可の指令があつたので本廿日午前十時から徴入式を行つて早速工事に着手した

役場書記が

賭博に交る

湯本町字天王崎四五野菜行商富岡實(三)方で十八日午後七時頃同人初め同町役場書記柳田輝雄(三)字榮田馬上榮司(三)同字食肉商小山吉廣(五)同字坑夫新妻喜一(三)小名濱町字定西野菜商鈴木金彌(三)の五名が車座になつて十丹賭博の開帳中を平署員に踏込まれ檢舉された

平裁判たより

△湯本町字湯本榮田七八鳥
△探炭夫 三十七才 尋卒
△鑄物工 三十八才 高卒
△機械工 三十四才 尋卒
△見習コック 二十迄 尋卒
△月六圓
△小店員 十七才 尋卒
△給料面談
△回入を求める方
△回職を求める方
△探炭夫 三十七才 尋卒
△鑄物工 三十八才 高卒
△機械工 三十四才 尋卒

(十九)武内大造
前二、〇〇 幼兒の時間
お話「觀察ばなし金魚」その他 大道清子
前二、三〇 婦人講座
「婦人と實際心理」六、青年の心理 二、松本亦太郎
後六、〇五 新日本音楽一御代の祝 二、清水樂三 舞臺曲宮城道雄曲
後二、〇〇 小學生の時間
後三、唱歌遠足柴田知常
後二、四〇 小學生の時間
高一(二)世界周航物語奈良女子師範學校附屬小學校 兒童
後五、〇〇 東北六縣ラヂオ將棋勝手合
後六、〇〇 子供の時間
國史物語「大楠公」三部曲 第一桶の若葉大阪放送童話劇研究會
後六、二五 青年の時間
「田園の文學」吉田絃二郎
後七、三〇 京城より 講演「樂浪の文化に就て」藤田亮策
後八、〇〇 箏曲松島八景 佐々木松波
後八、三〇 映畫劇「マリ」アのお雪」第一映畫社山田五十鈴 夏川大二郎外
後九、〇〇 歌劇「黒船」プロムニア寶塚交響樂團 指揮山田耕作



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島樞史

(畫) 野口

第二百二十七

延寮館夜景 (八)

『伊藤さんのお弟子? それとも木戸さんの?』
『それよりか、レデー、あなたのお名前を承まはりましたものですか?』
『まあ、あたしの……そんな事……どうでもよござんすわ』
『いや、是非に承まはりました』
『そんなこと、後藤象次郎さんにおきなさるとよろしいわ』
美女ははつきり臆面もなく云つた。
それから、半時程後新島原中萬字樓の奥庭に面した桃色にぼてる一室で振袖姿の美女が、江藤新平と差し向ひに酒をくみかはして居つた。

紅燈の本で心持あてな高島田番をかき、重たげな振袖を萬華の様ひろげ妓のついでくれる酒を唇に當て、ある様は、一時間程前に延寮館の舞踏場で、コーヒール室で數多の紳士貴婦人と應對して居つた小貴婦人とは到底信じられぬ程妙に色氣たつぷりな容姿……



『御前』
美女は媚笑を一杯に堪へて、江藤の精悍な顔を見た
『何んぢや』
『今のさつき、怪しい白面諸生があたしの後をつけて来ましたの』

『しないだらうな』
『まさか、でも名前が知りたかつたら江藤さんに伺つたらいいでせうと云つて上げましたわ』
『それは迷惑ぢや』
『オホ、あんな白面諸生がオホ、』
美女は櫻の花片の様な頬をして大げさに笑つた
『おれは内密でおまへに會つてをるんぢや、しかるにたとへ白面諸生でもそやつに感付かれるやうな言辭をもちたらずとはいかん』
『まあ、水くさい、御前と』

『うむ』
『あたしの名前が知りたいの、お宅までおともさしてくれのつて……随分いやな男……』
『して、どうした其の男は?』
『あなしが、此處へ入るまでついて来ました』
『おれと會ふことを告げや』

あたしの仲が世間に廣がつたつて何んでもないぢやありませんか』
『それアまあ、さうぢやが然し……』
『いやですわ御前』
美女は振袖で打つ眞似をした江藤はそれに答へず傍らの妓や仲居かへり見た
『お前たち少々遠慮してく

れい』
『はア』
妓たちは顔を見合つた
『一寸話があるんぢや、遠慮してくれい』
『まあ、しんねこで……』
仲居は甘い挑戦を向けた
『さうぢや、しんねこなんぢや遠慮せい』
『はい、はい』
妓たちは立つて行つた。

『おふく』
江藤はきつい眼で美女にさへやいた。
『その白面諸生、さつと大限或は轟澤にたのまれたのぢや、お前の素性を調査することさ』

キリン生ビール

ビール黨のビール
キリン生ビール
キリンビール本社直送
近日發賣

平會館

電 624

花柳病の防禦と治療

「花柳病の撲滅」を提唱す

陽春期を迎へ 徹底的治療が肝要

- 一、花柳病に時期はないが、生物すべてが生産力を失くす陽春期が来ると、一番感染率が多く、また一度感染した人でも、徹底的な治療を怠るために再感染し、人生にとつて樂しかる可き花柳の毒も、花柳病者にとっては決して愉快なものではなく、人生の幸福を自毀すればする程、その苦痛から逃げて一人悄然と暗夜に立つ憂鬱を産み種々の悲劇に誘はれる多くの春である。
- 二、花柳病の怖しさに就いては何人もこれを察知して居る通り、この疾病に感染し、恥辱のある個人となつたり、また幸福なる家庭を破壊したり、前途ある身を自ら死を選び花柳病から起る悲劇は益々激しく、國難のため海に擲られたへない。
- 三、本誌ではこの怖しい「國病」を徹底的に撲滅せんがため、左記本社製品の全體的な賣出しを行ふこととなつた。我々の花柳病薬は長き歴史と、最新の學理に基づく研究によつて完成された優秀な薬であることは一般の認むるところである。
- 四、近時花柳病の毒多く、醫利主義の安心ならぬ醫藥が市井に溢れて居るが、こうした薬に依つては決して健康を望むことが出来なはいかりでなく、むしろ病勢を益々悪化させるのみである。
- 五、花柳病の克服も服用する薬の服用に依つてのみ希望は達せられる。あれこれと迷はずに「クスリはホシ」と決め、「國病」の防禦と治療に専念を期していただきたい。

花柳病防禦薬

ホシシクロ .10 .20 .50 1.00 2.00

痲病内服薬

ホシヨノール 1.00 3.00 5.00

痲病注入薬

ホシズルファミン 5.0

痲毒内服薬

ホシサヨリン 1.00 3.00 5.00

星電 429 舖番
平支平部 星電 429 舖番
平支平部 星電 429 舖番